

ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050の進捗状況

CO2排出量の状況(単位:値⇒万t-CO2)

全体概況

項目	2005年 基準年度	2011年度			2020年度 目標年度	「ナビの主な施策」の進捗状況	「ナビ以外で影響を 与えた政策、事件等」	目標達成見込
	基準値	想定 目標値	実績値	H22電力係 数での試算	目標値			
全体	4,296	3,866	4,231	3,934	3,222	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定型排出量取引制度導入(▲188万t-CO2) ⇒⇒進捗◎ 太陽光発電の普及拡大(補助)(7万基⇒▲3万t-CO2) ⇒進捗○ 次世代自動車の普及(普及率H22:3.3%→H23:4.7%) ⇒⇒進捗○ 	<ul style="list-style-type: none"> リーマンショック後の景気低迷 原発事故(⇒排出係数+24%(H22→H23)) エコカー減税、家電エコポイント 	△ 厳しい
産業部門	1,586	1,452	1,413	1,316	1,251	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定型排出量取引制度導入(▲163万t-CO2) ⇒⇒進捗◎ 中小企業の省エネ対策(H21~24融資+補助▲4千t) ⇒進捗○ 中小企業の省エネ診断等(診断H23・24:85回など) ⇒⇒進捗○ 	<ul style="list-style-type: none"> リーマンショック後の景気低迷 原発事故(⇒排出係数+24%(H22→H23)) 原発事故に伴う節電・省エネ(定着率5%程度) 	◎ 大変順調
業務部門	610	548	575	513	456	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定型排出量取引制度導入(▲25万t-CO2)⇒⇒⇒進捗◎ 建築物環境配慮計画制度(平均削減率2割) ⇒⇒⇒⇒進捗○ 既存建物のエコオフィス化(補助⇒1.3万t-CO2) ⇒⇒⇒進捗○ 	<ul style="list-style-type: none"> リーマンショック後の景気低迷 原発事故(⇒排出係数+24%(H22→H23)) 原発事故に伴う節電・省エネ(定着率5%程度) 	○ 順調
家庭部門	762	650	931	800	481	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電の普及拡大(補助)(7万基⇒▲3万t-CO2) ⇒進捗○ エコライフDAYの普及拡大(参加者数延べ412万人) ⇒⇒進捗○ 深夜化するライフスタイルの見直し(夜エコ朝活協力店500) ⇒進捗△ 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電の普及(FIT、パネル価格低下) 家電エコポイント、住宅エコポイント(省エネ強化) 原発事故に伴う節電・省エネ(定着率5%程度) 	× 大変 厳しい
運輸部門	1,049	929	997	991	749	<ul style="list-style-type: none"> 次世代自動車の普及(普及率H22:3.3%→H23:4.7%) ⇒⇒進捗○ エコドライブの普及(講習会参加者延べ2,180人) ⇒⇒⇒進捗○ EV用充電設備の整備(H22~23:25台) ⇒⇒⇒⇒⇒進捗○ 	<ul style="list-style-type: none"> 次世代自動車普及(国エコカー減税) 自動車の燃費向上(年平均0.74km/l) 各自動車が新規車種を投入 	△ 厳しい
廃棄物その他	290	288	314	314	285	<ul style="list-style-type: none"> みどりと川の再生(CO2吸収量1.8万t:森づくり関連) ⇒進捗○ 流域下水道の整備(汚泥の高温焼却H22▲6万5千t) ⇒進捗○ 高効率ごみ発電施設の導入(5団体予定▲3.4万t) ⇒⇒進捗○ 	<ul style="list-style-type: none"> 景気浮揚による廃棄物処理量の増加 原発再稼働と節電、省エネ意識の希薄化 国の森林吸収源対策の行方 	× 大変 厳しい

※ 廃棄物処理量の2011年度数値は最新値2010年度値を使用。なお、2010年度に算出方法を変えたため、2009年度に比べて47万t増加。

各部門の課題と今後の方向性①



産業部門(排出ガス割合:33%(H23))

排出量の現状

2005年 基準年度 基準値	2011年度			2020年度 目標年度 目標値 削減率
	想定 目標値	実績値	H22電力係 数での試算	
	削減率			
1,586	1,452	1,413	1,316	1,251
	▲8.4%	▲10.9%	▲17.0%	▲21.1%

◎大変順調

主な施策の進捗

- ・目標設定型排出量取引制度導入(▲163万t-CO2) ⇒⇒進捗◎
 - ・中小企業の省エネ対策(H21~24融資+補助▲4千t) ⇒進捗○
 - ・中小企業の省エネ診断等(診断H23・24:85回など) ⇒⇒進捗○
- ◎大変順調

社会の状況

- ・リーマンショック後の景気低迷 +要素
- ・原発事故(⇒電力排出係数悪化+24%(H22→H23)) ▲要素
- ・原発事故に伴う節電・省エネ(定着率5%程度) +要素

今後の課題

- ・政府の景気浮揚対策による生産量増大と排出量取引制度の推進
- ・原発再稼働の方向、節電、省エネ意識の行方
- ・排出量取引の対象となるクレジット価格の動向

施策の方向

- ・目標設定型排出量取引制度の円滑な運用⇒第2計画期間の開始
- ・中小企業の省エネ推進⇒エネルギー消費量削減の支援等
- ・次世代エネルギーの開発促進⇒産業支援



業務部門(排出ガス割合:14%(H23))

排出量の現状

2005年 基準年度 基準値	2011年度			2020年度 目標年度 目標値 削減率
	想定 目標値	実績値	H22電力係 数での試算	
	削減率			
610	548	575	513	456
	▲10.2%	▲5.7%	▲15.9%	▲25.2%

○順調

主な施策の進捗

- ・目標設定型排出量取引制度導入(▲25万t-CO2) ⇒⇒進捗◎
 - ・建築物環境配慮計画制度(平均削減率2割) ⇒⇒⇒進捗○
 - ・既存建物のエコオフィス化(補助⇒1.3万t-CO2) ⇒⇒⇒進捗○
- 順調

社会の状況

- ・リーマンショック後の景気低迷 +要素
- ・原発事故(⇒電力排出係数悪化+24%(H22→H23)) ▲要素
- ・原発事故に伴う節電・省エネ +要素

今後の課題

- ・政府の景気浮揚対策による経済活動の活発化と排出量取引制度の推進
- ・原発再稼働の方向と節電、省エネ意識の行方、都市の低炭素化の行方
- ・排出量取引の対象となるクレジット価格の動向

施策の方向

- ・目標設定型排出量取引制度の円滑な運用⇒第2計画期間の開始
- ・中小企業の省エネ推進⇒エネルギー消費量削減の支援等
- ・建物の省エネ化の促進⇒エネルギー消費量等の見える化等
- ・まち全体の低炭素化⇒エコまち法

各部門の課題と今後の方向性②



家庭部門(排出ガス割合:22%(H23))

排出量の現状

2005年 基準年度 基準値	2011年度			2020年度 目標年度 目標値 削減率
	想定 目標値	実績値	H22電力係 数での試算	
	削減率			
762	650	931	800	481
	▲14.7 %	+ 22.2%	+5.0%	▲36.9 %

× 大変厳しい

主な施策の進捗

- ・太陽光発電の普及拡大(補助)(7万基⇒▲3万t-CO2) ⇒進捗○
 - ・エコライフDAYの普及拡大(参加者数延べ412万人)⇒⇒進捗○
 - ・深夜化するライフスタイルの見直し(夜エコ朝活協力店500)⇒進捗△
- 順調

社会の状況

- ・太陽光発電の普及(FIT、パネル価格低下) +要素
- ・家電エコポイント→省エネ家電、住宅エコポイント→次世代省エネ基準 +要素
- ・原発事故に伴う節電・省エネ(定着率5%程度) +要素

今後の課題

- ・施策の有効性(我慢の省エネから実効性の高い施策へ)
- ・原発再稼働の方向と節電、省エネ意識及び余剰電力買取料金の行方
- ・都市の低炭素化の行方、国の住宅政策の行方

施策の方向

- ・太陽光発電の普及拡大⇒ローコスト事業、屋根貸し事業、頭金なしローン事業
- ・住宅の省エネ化の促進⇒エネルギー消費量の表示等、エコまち法
- ・家電・設備の省エネの推進⇒省エネの見える化、省エネ家電の普及等



運輸部門(排出ガス割合:24%(H23))

排出量の現状

2005年 基準年度 基準値	2011年度			2020年度 目標年度 目標値 削減率
	想定 目標値	実績値	H22電力係 数での試算	
	削減率			
1,049	929	997	991	749
	▲11.4 %	▲5.0%	▲5.5%	▲28.6 %

△ 厳しい

主な施策の進捗

- ・次世代自動車の普及(普及率H22:3.3%→H23:4.7%) ⇒⇒進捗○
 - ・EV用充電設備の整備(H22~23:25台) ⇒⇒⇒⇒⇒進捗○
 - ・自動車地球温暖化対策計画書の提出(783事業者) ⇒⇒進捗○
- 順調

社会の状況

- ・次世代自動車普及(国エコカー減税) +要素
- ・自動車の燃費向上(年平均0.74km/l) +要素
- ・各自動車メーカーが新規車種を投入 +要素

今後の課題

- ・経済活動の活発化に伴う走行距離の増加
- ・原発再稼働による電気料金の行方(EV車の普及に影響)、燃料電池車等の行方
- ・原油価格の行方:途上国の発展とシェールガス(オイル)革命

施策の方向

- ・次世代自動車の普及⇒充電器等の充実等
- ・普及に向けた次の一手

各部門の課題と今後の方向性③



廃棄物その他(排出ガス割合:7%(H23))

排出量の現状

2005年 基準年度	2011年度			2020年度 目標年度
	想定 目標値	実績値	H22電力係 数での試算	
基準値	削減率			目標値
290	288	314	314	285
	▲0.7%	+8.3%	+8.3%	▲1.7%

× 大変厳しい

※ 廃棄物処理量の2011年度数値は最新値2010年度値を使用。なお、2010年度に統計算出方法を変えたため、2009年度に比べて47万t増加。

主な施策の進捗

- ・みどりと川の再生(CO2吸収量1.8万t:森づくり関連) ⇒進捗○
 - ・流域下水道の整備(汚泥の高温焼却H22▲6万5千t) ⇒進捗○
 - ・高効率ごみ発電施設の導入(5団体予定▲3.4万t) ⇒⇒進捗○
- 順調

社会の状況

- ・リーマンショック後の景気低迷による廃棄物処理量の減少 +要素
- ・国全体の森林吸収源対策 +要素
- ・原発事故に伴う節電・省エネ +要素

今後の課題

- ・経済活動の活発化による廃棄物処理量の増加
- ・原発再稼働の方向と節電、省エネ意識の行方
- ・国の森林吸収源対策の行方

施策の方向

- ・森林吸収源対策の推進⇒(国と連動)
- ・更なる廃棄物削減に向けた次の一手